

國學院大學學術情報リポジトリ

〔学生懸賞論文〕 選評

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 國學院雑誌編集委員会 メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/590

学生懸賞論文発表

選評

第一部門

(本学文学部・神道文化学部学生、別科在籍者)

なし

第二部門

(本学大学院文学研究科・専攻科在籍者)

佳作

西座

理恵 (文学研究科博士課程後期三年)

「肉付き面」モチーフの多義性

— 「心の鬼」から鬼となる者 —

(所属・学年は、応募当時)

西座 理恵 (文学研究科博士課程後期三年) 令和元年度

「肉付き面」モチーフの多義性 — 「心の鬼」から鬼となる者 —

「肉付き面」モチーフとは、文学や伝説・昔話に登場するもので、顔につけた面がはずれなくなり、そのことよって起きる様々な有様を描くモチーフである。例えば、面がはずれなくなった者が異形の者となったり、宗教的な呪力で元に戻るといような展開で終わるものがあったりで、様々な描かれ方をする。

筆者は、そうした多義性を持つ「肉付き面」モチーフについて、本論文においては二つの視点から分析する。一つは女性に結びつくものということであり、もう一つは稚児に関わるものという視点である。

前者については、筆者は丹念に先行研究を分析しながら、芸能と女性と面との関係の問題、現在の民俗伝承における祭祀や、山の神の伝承を取り上げて、「肉付き面」モチーフの背景に民俗伝承における女性への意識が影響している可能性を提起して

いる。

「肉付き面」モチーフの一般的なパターンは、主人公の悪行に対する罰として面がはずれなくなり、改心してはづれるというものである。しかし、筆者は、御伽草子『伊吹山酒典童子』がそれと異なり、悪行とは関係ない児の面がはずれなくなつて鬼と化すという部分に注目する。そして、関東以北の「酒呑童子」伝説のほとんどがこれと同様であるが、一方これらの伝説では恋愛に関わつて稚児が鬼となつてゐることを指摘する。これをみれば、悪心が面をはずれさせなくするというようにはいえないということになる。そして、このことについて筆者は、芸能において子供は面をつけないことがほとんどであること、子供は面をかぶらなくとも憑依状態になれるという先行研究によりながら、このパターンを説明しようとしている。

筆者はこの「肉付き面」モチーフについての論考を今までも発表してきているが、今回は多義性を持つこのモチーフについて、女性と稚児ということからその特色を説こうとしたもので、その着想は首肯できる。ただし、結論としたものについては、一般的な理解によつて説明したような形になつていて問題提起にとどまり、論じ尽くせたとはいえずしもいえない。今後の研究の展開を期待したい。